

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月7日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03643

研究課題名(和文)被災地の復興における移動起業家の役割とエコシステム

研究課題名(英文) The roles of immigrant entrepreneurs in the reconstruction of the disaster-stricken area and their entrepreneurial ecosystems

研究代表者

福島 路 (Fukushima, Michi)

東北大学・経済学研究科・教授

研究者番号：70292191

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：災害後に起業家精神が高揚するといわれているが、本研究ではとりわけ震災後に被災地以外の地域から流入をしてきた移動起業家に焦点を当て、彼らが被災地の復興と起業家のエコシステムに与えた影響について実証することであった。トーマツや仙台市産業振興事業団アシスタとの連携したサーベイ調査、および事例調査の結果から、移動起業家の特徴を明らかにしつつ、少数ながらも、特に地域のチェンジエージェントとして、被災地復興とその地域の起業家のエコシステム形成に貢献したことを実証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は東日本大震災後の起業家活動の現状について明らかにした。災害後、人材の移動が増え、その中から移動起業家が現れることを指摘し、その存在に焦点を当てた。彼らが地域のチェンジエージェントとして役割と被災地の復興を方向づけ被災地に与える影響について実証した。日本のみならず海外でも災害後、被災地を再建し活力を取り戻すために何をしたらよいかという課題に対し、移動起業家の役割とその活用に焦点をあてた本研究は示唆を与えるものとなるであろう。

研究成果の概要(英文)：It is said that entrepreneurship tends to be promoted after disasters. This project focuses on immigrant entrepreneurs, who moved to the devastated places and started their businesses after the Great East Japan Earthquake and evaluates what type of impacts they have given to the areas. Based on the survey conducted with Deloitte Touche Tohmatsu LLC and Sendai City Industrial Promotion Organization, the features of immigrant entrepreneurs are revealed. And even if the number is not so large, immigrant entrepreneurs play important roles as change agents and they have contributed to the damaged areas clearly.

研究分野：アントレプレナー

キーワード：移動起業家 東日本大震災 エコシステム

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は、東北の特に沿岸地方の産業を壊滅に追いやった。研究代表者は被災地の研究者として、震災直後から被災地域の産業復興調査に携わってきた。

天災や戦争などの後には、社会における起業家精神が高まるという指摘が多数の研究でなされてきた。例えば、関東大震災後に日本のラジオ産業を支えた中堅中小企業が多数叢生したことは平本(2012)が指摘している(例えば早川徳治のシャープ、服部金太郎の精工舎など)。また福嶋(2014)も、2005年にハリケーン・カトリーナに襲来されたニューオーリンズに多数の起業家が流入し、今や全米の注目を受ける起業家の街に変貌しつつあることを記述した。このように震災によって既存設備が破壊されたり、取引関係が切れたりすることによって、起業のビジネスモデルが壊れ、これを機に新たなイノベーションが引き起こされるということは過去の災害でも散見されている。

とりわけ今回の研究で注目したのは、震災後、被災地に外部から移住してきて新たなビジネスを立ち上げた移動起業家であった。研究代表者が産業復興調査を行う過程でも、移動起業家が震災後に被災地にあえて事業を立ち上げ、地域課題に取り組む事例を目にしたり話を聞いたりする機会が度々あった。その中で、災害地域では移動起業家が地域復興の重要な役割を果たすという仮説をもつようになった。

しかし移動起業家にとって被災地の起業は困難を伴う。確かに被災地には多数の社会的課題がビジネスチャンスになりうるが、他方で、被災地にほとんど知己もない、いわば「よそ者」である移動起業家が被災地で起業するのはむしろ不利である。それにもかかわらず、移動起業家はなぜ被災地で起業をするのであろうか。また彼らが被災地で事業を始めることによって、被災地の産業復興にはどのような影響があったのであろうか。

なお本研究では、「起業をするために他地域から移り住んできた起業家」のことを、「移動起業家」と広義に定義する。

### 2. 研究の目的

本研究では震災後に被災地以外の地域から流入をしてきた移動起業家に焦点を当て、彼らの実態を明らかにしつつ、彼らが被災地の復興と起業家のエコシステムに与えた影響について検討することを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では、主に以下の5つの調査が行われた。東日本大震災の被災地の一つである仙台市の起業実態アンケート2回、トーマツベンチャーサポートと一緒に行った起業家に対するアンケート調査の整理・分析、被災地から起業の街に変貌した米国ニューオーリンズに関する調査、④移動起業家に対する個別インタビュー調査、⑤関連既存文献のレビューからなる。特に仙台市の起業実態アンケートは、仙台市の外郭団体である仙台市産業振興事業団の起業支援機関である「アシスタ」と連携して行われ2016年と2019年の二時点にわたって行われた。

### 4. 研究成果

トーマツベンチャーサポート、仙台市産業振興事業団アシスタと連携したサーベイ調査、および移動起業家の事例調査、ニューオーリンズでの調査などから、移動起業家は少数ながらも、特に地域のチェンジエージェントとして、被災地復興とその地域の起業家のエコシステム形成に貢献したことが明らかになった。詳細については下記のとおり。

第一に、仙台市の起業家実体調査より、移動起業家は人数としては少ないが、起業動機が地場起業家よりも利他性が強く、また成長志向が高いこと、また実務的経験が豊富であり、彼らの活動が地域にインパクトを与えてきたことが明らかになった。また2019年のサーベイ調査より、移動起業家は前回より増加していることが明らかになった。

第二にニューオーリンズの調査から、ハリケーン・カトリーナから10年後、当地において起業の主体が、移動起業家から徐々に地元起業家に移行してきていることが起業家のキャリアデータから明らかにした。つまり初期においては移動起業家が活躍し、彼らが注目され外部資源を集めたり地域内の起業インフラを充実させたりする。それが地域の起業家たちに影響を与え、企業家の層を広げていった(起業の民主化)。こうして移動起業家が地元起業家に影響を与え、当地のエコシステム形成に影響を与えていた。

第三に移動起業家へのインタビュー調査などより、移動起業家が被災地の抱える課題に対して内発的な動機から果敢に取り組み、被災地の復興へ貢献をしてきたこと、また彼らの活動の前提にはそれを受け入れる側の地域の受容態度も重要であることが明らかになった。上記の結果より、災害後の被災地復興において移動起業家が地域の起業のエコシステムにプラスの影響を与えたことが実証された。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

1. Michi Fukushima. (2017). Entrepreneurships after a disaster, ISPIM Innovation Summit proceedings, pp.1-9. (査読あり)
2. 福島路 (2017)「仙台市における震災後の起業：仙台市産業振興事業団アシスタ支援企業へのアンケート調査」TMARG Discussion Papers, No.131. pp.1-20. (<https://www.econ.tohoku.ac.jp/e-dbase/dp/tmarg/tmarg131v2.pdf>). (査読なし)
3. 福島路 (2015)「震災復興の過程と起業家活動」『2015年度東北圏社会経済白書』pp.27-29. (査読なし)
4. 福島路 (2015)「震災後の起業家活動とエコシステムの形成：ニューオーリンズの復興から学ぶ」『商工金融』65巻, pp.4-18. (査読なし)

〔学会発表〕(計2件)

1. Michi Fukushima. (2019). Entrepreneurships in aging and depopulating society, XXX ISPIM Innovation Conference: Florence, Italy, 2019. (査読あり)
2. Michi Fukushima. (2017). Entrepreneurships after a disaster, ISPIM Innovation Summit: Melbourne, Australia, 2017. (査読あり)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。